



### 各地の活動レポート

#### ●あいつで明るい地域づくり

「小さな親切」運動本部特任推進委員の田子育良さん（福島県）から、20年以上に亘ってあいつ運動に力を注いでいる、山橋地区青少年健全育成推進協議会に「小さな親切」実行章を推薦が届きました。



田子さんより実行章とあいつ運動推進グッズを贈呈

同地区では毎年、あいつをテーマにした標語を募集し、優秀作品は立看板にして設置するなど、近隣住民にあいつを呼びかける活動を行っています。

#### ●講演に感銘

4月26日（金）、同協議会に実行章とともに運動本部のあいつ運動推進グッズ（のぼり、たすき等）を田子さんから贈呈。今後は地域の学校にもグッズを提供し、地域一丸となって明るい地域づくりを進めようと田子さんの夢が広がっています。

6月28日（金）、東京都武蔵野市支部（事務局・多摩信用金庫）が総会を開催し、「小さな親切」実行章の贈呈を行いました。

#### ●児童養護施設「のぞみの家」の子どもたちを同所主催のイベントに招待したり、免許取得費を免除する等の支援を行っています。

総会後は、「のぞみの家」施設長の山崎泰子さんが講演を行い、これまでに600人以上の子どもを育てた経験から、親の愛情と家庭でのしつけの重要性等を語りました。また、子どもたちを養育する上で心がけていたという「一緒に時間を過ごし、共に生きていく」との言葉に、多くの参加者が感銘を受けていました。



愛媛県本部の記念品のマグネット

れからも親切を続けてほしいとの願いを込めて、記念のマグネットを贈呈しています。このマグネットは、障がいのある方の社会参画と自立支援を目指す、伊予銀行の特例子会社（株）チャレンジ＆Smileが製作。同社は、伊予銀行のPRグッズを作る工房としてスタートし、2018年の特例子会社認定を機に、外部からの注文も受け付けています。

マグネットの他には、愛媛県産材を使った木工品や、愛媛特産の今治のタオルメーカーから出る残糸を再利用した織物なども好評。障がいのある方が、生き生きと働ける職場づくりを目指しています。



受章した武蔵境自動車教習所と山崎施設長が記念撮影

#### ●花いっぱい地域に

室蘭支部（事務局・北海道電力株室蘭支店）は、今年度より花いっぱいの明るい地域づくりを目指し、「花苗寄贈活動」をスタート。

水野治支部代表より、3つの福祉施設へサルビアやペコニアの花苗が贈られました。

寄贈先の施設は、施設関係者以外にも利用できる交流スペースを提供したり、イベントを実施する等、日頃から地域住民との交流を積極的に推進しています。花苗の寄贈は、地道



寄贈先の子どもたちから感謝のカードが渡されました

※特例子会社とは、「障害者雇用促進法」に定義される、障がいのある人に配慮した子会社  
問合せ：089-925-0135

（代）受付時間／9時～17時（銀行休業日は除く）

#### ●寄附者芳名

（2019年4月～6月末／順不同、敬称略）  
広島県 藤堂正人 藤原紀男／山口県 福増満／千葉県 村松道夫

に地域貢献活動をする団体に光をあてることも目的の一つとなっており、「このような形で称えられ、励みになる」と喜ばれました。今後は、花々が地域住民の心をつないでくれるでしょう。

#### ●親切の日々にラジオ出演

6月13日は、「小さな親切」運動スタートの日。近年、メディアなどで取り上げられる機会が増えており、今年はBSNラジオ（新潟放送）に、山橋由貴子専務理事が電話出演しました。

新潟県には県本部がありませんが、少しでも運動に興味を持っていただけるよう、発足の経緯や50年以上に亘って思いやりの心を育てる活動を推進していることを詳しく紹介。また、リスナーに向けて「親切は誰かのためにするだけではなく、人間関係を円滑にするもの。自分のできる親切を実践してほしい」と呼びかけました。ラジオを聴いて、新潟県にさらに親切の輪が広がることを期待しています。

#### お知らせ

#### ●グッズ製作ならおまかせ

愛媛県本部（事務局・伊予銀行）では、子どもの実行章受章者等へご

#### ●道府県本部新代表就任

（2019年4月～6月末現在）  
北海道本部 氏家和彦  
（北海道電力(株)取締役常務執行役員）  
山口県本部 神田一成  
（山口銀行取締役頭取・山口フィナンシャルグループ常務取締役）

熊本県本部 野村俊巳  
（熊本銀行取締役頭取）

### 「おとなの作文」

## 翻弄される動物たち

静岡県 西岡佳代子

ある日の夕方、犬の散歩に出かけようとしていた時のこと。夫が家の横の坂道を、見知らぬ犬を抱いて上がってきた。「えっ、その犬どうしたの」と聞くと、「迷子の犬みただよ。下の家の前をうろろろしているのを見て、みんな関わりたくないようだったから、連れてきた」と、夫。

首輪をしているので、どこかの飼い犬のようだったが、この辺りでは見かけない犬だった。ここは田舎の山の中、外は薄暗くなっていた。こんな経験は初めてなので、どうしたものかと考えたが、その時ふと思出した。

以前、動物愛護センターへ見学に行ったことがあったのだ。迷子の犬や、飼い主の事情で手放さなければならなくなった犬や猫を保護している施設だ。そこでは、定期的に譲渡会を行い、動物たちは新しい飼い主に引き取られていく。施設では、いつ引き取られてもいいように、トレーニングも行っていた。保護犬イコール殺処分の昔のイメージしかなかった私は、その施設を見て、少し安心したのを覚えている。

センターに電話すると、「別の犬を一頭保護してから伺うので、夜遅くなりますが」とのこと。その間、迷子の犬は人懐っこくシッポを振り、与えられたエサも夢中で食べていた。

夜10時頃、センターの職員さんが迎えにきて、「大丈夫ですよ。センターでちゃんと保護して、殺処分はありませんから」といい、犬を車に乗せ帰っていった。ほんの数時間しか一緒にいなかったのに、私たち夫婦には少し淋しいものがあった。愛嬌のあるかわいい犬だった。

我が家にも犬がいる。元の飼い主に虐待を受け、もう飼えないという状態になって、知人が見るに見かねてうちに連れてきた犬だ。言うなれば、これも保護犬なのだ。

人間をじっと見つめたままシッポも振らない。横を通るだけですぐにかみついてきた。10歳になっていたのだから、そう簡単には慣れないと思っていたが、夫は時間をかけてその犬に歩み寄っていった。

犬には人間の気持ちが伝わる、そう思った場面がやってきた。夫が寝転んでいるすぐ横に、体をぴったりとくっつけてその犬は眠ってしまったのだ。それからは、それがお決まりの寝床となった。今では立派な家族となり、甘えてくる。悲しい状況にあった分、愛情を持って接すればちゃんとそれを受け取ってくれる。

動物愛護センターの犬、猫たち、いい里親に巡り合えるといいな、そう願わずにいられない。

そして命の大切さ。高額で売買される動物たちも、ビジネスに利用されるだけでなく、ちゃんと最期まで家族に愛情をもらって生活できることを祈るばかりである。